

令和4年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 網走福祉協会	代表者	古賀 敏朗	法人・ 事業所の 特徴	網走市向陽ヶ丘の住宅街にサテライト型の地域密着型介護老人福祉施設並びに小規模多機能居宅介護支援事業所を開業運営し、網走市の高齢者福祉、介護の推進、充実を図る事を目的とし、平成21年4月にオープンした。ユニット個室であり、入所定員18名(9名1ユニット×2) 小規模多機能登録定員、15名(通い定員:最大9名、泊まり利用定員:5名) 「地域密着」とはお年寄りがこれまで過ごしてきた地域での生活、人間関係が継続できること。「小規模」とは、お互いになじみの関係がもてる居場所であること。「多機能」とは、『通って』『泊まって』『自宅に来てくれて』『将来的に住む』ことが出来る事が有機的につながっている事を指します。 介護の内容は、日常生活全般の介護看護、地域・社会活動への参加、ご家族への支援である。 介護の目標は、一人一人に向き合い、気持ちに寄り添うこと。1日の生活がスムーズに流れるように支援すること。家族や地域とのつながりが切れないよう支援し、誰でも立ち寄って頂ける施設環境を作っていく。
事業所名	向陽ヶ丘レインボーハイツ	管理者	田宮 匡史		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他 (網走市社協)	合計
	1人	人	2人	人	1人	1人	人	3人	1人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して、職員個々が考え、自己評価を実施する。 新型コロナウイルス感染予防を万全に行った上で、出来ることを増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員個々が考え、自己評価の実施ができた。新型コロナウイルス感染予防に努め、感染者を最小限にし、少しずつ出来ることを増やすことができた。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して感染対策をしっかり行い、新型コロナウイルス感染を防ぐとともに、今後も職員個々がしっかり考えながら、自己評価に取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 環境面に関して、今後も家庭的な雰囲気や季節を感じられる施設での取組みを継続して行う。 新型コロナウイルス感染予防を万全に行った環境づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節ごとにフロアの装飾などで季節を感じてもらえる取組みや、それに合わせた行事を実施することが出来た。 新型コロナウイルスの感染対策をしっかり行い、食堂・リビングの飛沫防止の亚克力板を使った衝立の設置や、人が密集しないようなスペース作りすることが出来た。 		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染予防をしっかり行いながら、今後も季節感を取り入れた、装飾や行事を実施し、利用者に楽しんでもらえる環境づくりをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙について、作成する職員の人員確保やスキルがあれば、再度発行を検討する。 継続して新型コロナウイルス感染予防を行いながら、地域の会議や行事に参加し、交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙の作成は職員の入れ替えや、人員不足などがあり今年度も出来なかった。 新型コロナウイルス流行の為、地域行事や会議などにほとんど参加出来なかった。 向陽地区課題解決協議会等、感染対策を行った上、参加することが出来た。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も新型コロナウイルスの感染対策をしっかり行った上、少しずつ地域行事・イベントなどに参加する機会を作ることができるよう努めていく。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙について、作成する職員の人員確保やスキルがあれば、再度発行を検討する。また、家族に手紙や写真を送り、利用者の日常の様子をお知らせする取組みを行いたい。 新型コロナウイルス感染予防を行った上で、家族や地域ぐるみの行事を少しずつ再開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙については、今年度も発行は出来なかったが、不定期に利用者さんのご家族には施設内での生活や行事の写真を送らせていただき、日々の生活の近況をお知らせすることができた。 家族や地域との行事はコロナ禍の為、取り組むことが出来なかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も写真送付や、リモートでの面会など、家族に利用者の日々の生活がわかるような取組みを行っていく。 コロナ禍でも家族や地域との繋がりを持てるような取組みを考えていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防を行いながら、市等と協議し、運営推進会議の参加方法について検討する。 地域の方や家族へ会議の案内をし、参加の呼びかけを行う。会議については、施設の利用実績や報告にとどまらず、参加者全体での情報交換や共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から、書面での開催となった。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も、市と協議しながら、感染対策を行った上で運営推進会議の参加方法等について検討していく。 会議には、施設からの実績や報告だけでなく、参加者全体での情報交換や情報共有を図れるよう取り組んでいく。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 今後も年2回の防災訓練を行い、地域の方にも参加していただけるよう取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も施設で年度内2回、火災訓練を取り組むことができた。(夜間想定・災害想定) 		<ul style="list-style-type: none"> 今後も年2回の防災訓練を行っていくとともに、出来るだけ地域の方にも参加していただけるよう取り組む。